

教育科学研究会通信

京都教科研例会案内 361 号

3 月号



鴨川のヘラサギ

日時 2023 年 3 月 18 日 (土) pm6 : 30 ~ (日程変更注意)

場所 乙訓教育会館 (ハイブリット開催)

内容 第 344 回 3 月京都教科研例会

提起

新しい世界と自分が啓かれる学力・教養

—教育 3 月号 第 1 特集を読む—

提起

葉狩 宅也さん

●
自己の育ちを支える学力、教養とは何なのか。3 月号第 1 特集から考えたいと思います。ハイブリット開催の予定です。参加希望の方はお知らせください。URL を送信いたします。みなさんの参加をお待ちしています。

361 号目次

1, 3 月例会案内		1
2, 2 月例会報告	芦田 安正	3
	山田 真理	5
3, わたしの研究ノート (24)	佐藤 年明	11
4, 連載 平和博物館探訪	井上 力省	16
京都ラーメン探索 (2)	吉益 敏文	17
5 編集後記・ニュース		18

京都教育科学研究会第344回2月例会の報告

はじめに

2月例会は、昨年の大会記念講演 岡野八代さんの論文を軸に学習しました。特にケアと教育の関係について深めました。みなさんの問題提起を語っていただいて芦田さんの提起、指定討論として山田さんに発言してもらい深めていきました。

提起

子どもを大切にできる社会とは？

—教育2月号 記念講演 岡野八代論文から—

提起 芦田 安正さん

指定討論 山田真理さん

今後の例会予定

基本的に第3土曜です。場所は乙訓教育会館。すべてハイブリット開催の予定です。

○3月集会 3/25(教科研HPから申し込んでください)

教科研研究活動方針が確定されました。22年ぶりです。また例会でも少しずつ論議したいと思います。

○4月特別例会 4/15 (土) 戦争責任について考える 提起 野中一也顧問 午後2時～4時

戦争と平和 勝田守一と高坂正顕の人格から学ぶ

コメント(指定討論) 佐藤宏美(前教科研委員長)

渡部太郎(京都教科研代表)

終了後 懇親会 旬菜(956-7501)以前 実施した長岡京一文橋のお店

野中顧問の生き方から学び、山田さんの退職を慰労する会(仮称)

○5月例会 5/20 5月号 第1特集 大学での実践 提起 井上さん

○6月例会 関西教科研に合流予定

○7月例会 7/15 7月号 第1特集 ことばの獲得 提起 寺井さん

特集の扱いは第1、第2変更あり(詳細は通信でお知らせします)

問題意識の交流(会場参加者に語ってもらいました)要旨

大西 家族とは何か 政府の考える意図がわかった。

井上 人間の尊厳を大事にしなければならないと痛感した

野中 理性で妻の死はうけとめきれない 感性として受け止めるとは 例会にきて先を見据えたい。

まだまだ調子がでない 妻から学ぶ やさしさ 神道 超越的世界に生きるユーモア 明るさ

美しさ カントの世界 北海道の風景を思い出す 自分は生かされている。支えになる。

そんなことを考えている。

教育における「ケア」ということについて 報告 芦田

22年 全国大会記念講演 岡野講演を聞いての感想

はじめに

- 1、教育実践における「ケア」これなくして教育は成り立たない。
- 2、原理的には、教育、福祉、医療どれも「ケア」を内包している(含んでいる)
- 3、それは、「共感関係の成立」ということ。

§ 1、教育実践における「ケア」とは

- (1) 子供が、文字を習得し、文字を読み、書き、読解するには、一人一人の解り方(興味、意欲、文化、発達とレディネス)に対応し、覚えやすい方法をさぐり、繰返し練習するよう支援する。これがケアととらえることのできるのでは。
- (2) 小学校低学年の文字習得場面を例にして、教育のなかに含まれる「ケア」のあるなしを考えてみた。
- (3) 読解指導の場合、一人一人の言語から想起される概念を発表させ、その背後にある、生活経験、思いを理解しつつ、その概念の妥当性や多様性、そこでの文脈からの限定など、考えさせ、交流させる。その過程で概念(一単語、一文、段落、文脈、章節、作品)の一般性をつかませる。

この過程がケアだと思う。

- (4) 最重度の重症心身障碍児の教育で、かんがえると。

ベッドサイド授業では。

教師が子どもの寝ているベッドに訪問して、抱いて揺さぶる1対1の指導体制の授業。

教室での授業では。

五人の子どもたちが、それぞれ車いす、バギーに乗って、教室に移動して、ゆさぶりを感じ(からだにかかる重力の変化を受け止める)、楽しいひと時を過ごす六人の指導体制の授業。直径約1mの大玉(大球)の上にベニヤ板一枚(90×180cm)乗せてその上に子どもを寝かせて、歌に合わせて、ゆらりゆらりと不安を感じない程度に動かす。揺れの面白さのわかる子供には、大きな揺れを感じさせ、面白さを共感しあう

§ 2、福祉、医療のケアってどんなことかと(考えてみました)

- (1) 福祉では、生活リズムの確立、生活動作の自立を目指し、衣食住の一人一人の動作を支援する。本人の希望要望の実現を目指した支援、「自己実現」「一人一人の人生に寄り添う」介護。そこに「共感関係の確立」がある。
- (2) 医療は、命を守り、生活の自立を回復、社会復帰の前提を支援。

§ 3 ケアの本質 共感関係の確立ということ

一人一人の、命、生活、発達を保障すべく、一人一人と共感関係を構築することによって、看護、福祉、教育の営みが実現でき、営みが実現できたことで、共感関係が深まる。

なぜ、家族やケアへの関心なのか

排他的な政治学と自然な家族観

国家による家族の統治

ケアと教育

「家庭内での性別役割を強化し、子の育ちを型にはめ、最終的には国家に期待される国民を作り上げることが果たして教育なのか」 p61

「 「ケア」の論理から民主主義を鍛えなおす 」 p61

一人一人の「能力に応じた教育」 p61

ケア活動の特徴6点 p62

- 1, 生存にかかわるニーズを自ら満たせない者、誰かに依存せずには生きられない存在のためになされる。
- 2, そのケアのニーズは、個体的な理由とその人が置かれた状況により、一人一人異なる。
- 3, ケアを提供する者はケアを必要とするものに特別な注視、関心、配慮を向ける。
- 4, ケアする者とされる者との関係は、ケアする者に特殊な知識や判断力、そして責任を要請する。
- 5, ケア関係にある者は、その能力・体力において非対象的な力関係にあり、ケアの受け手は、ケア提供者の意図やケア実践そのものを理解しないことさえある。
- 6, ケアの提供者は、何が良いケアなのかを実践の中でつかみ取るしかなく、とはいえ、何が最善のケアなのかという最終的な回答を売ることがむづかしい。

「ケアが通常のサービスや商品と違う点」6点 p63

- 1, ケア労働は、その提供者と受け手が通常の財の売り手と買い手のような対等な立場にない。ケアの受け手は、与えられたケアに対する対価を払う能力がない。
- 2, ケア労働は、ケアの受け手一人一人のニーズに合わせたオーダーメイドと違ってよく、ケア労働の取り換えは、マニュアル化できるようなサービス業よりもむづかしい。
- 3, したがってよりよいケアを提供するために、ケアの受け手の個別性に敏感になる。
- 4, 通常の商品と異なり、ケアの受け手は代替を見いだしにくいことを、ケア提供者は知っている。過酷な労働条件になればなるほど、ケア労働者不足による、ケアの受け手へのダメージは大きい。そのため、ケア労働者はケア提供をやめることを躊躇する。
- 5, ケアの受け手にも提供者にも必要なニーズが何なのかは、予めわからない。ケアの受け手がそもそも自身のニーズを理解していない場合も多い。また、予め何が必要かわからないために、じっさいに提供されたケアが適切だったかどうか文脈によるしかなく、評価がむづかしい。
- 6, 予め買い手が求めるサービスが列挙されている場合と異なり、潜在能力の発展、あるいは、維持という、一般的・抽象的にしか捉えることのできないケアの受け手の福祉がケアの目的である。

p 64 「民主主義とは、社会で誰が、どのように、どこでケアの責任を果たすかを、中心的政治課題

としケアにかかわるすべての人がその責任分配の決定に参加することを保障することである」
p 6 5 「いかに個別にはよいケアが行われていようと、ケアの提供者とケアの受け手が生きる社会が、
軍事的であり女性差別や人種差別、の横行する国家であるとすれば、ケアされ成長する人はど
のような人になることが期待されるだろうか。」

ケア関係は、開放的である

p 6 5 「政治思想が毀損してきたケア実践に、当の政治が依存」しているなどの批判を
「政治に対して、(中略)政治的異議を市民が訴える時が来ている」

指定討論

岡野八代 ケアの倫理からの問題提起を受けて考えたこと

山田 真理

1 ジョアン・C・トロント、岡野八代訳・著『ケアするのは誰か？ 新しい民主主義のかたちへ Who Cares?』
(2020)

<この講演録をぜひ日本で知らせたいと考え理由>

- ・自分が実際に必要な時に時間がさげなくなっているということを考えてあったから
- ・この本によって日本社会で問いたいのは、政治という営みがどこかに固定的にあるのではないということ
政治を私たちの手に取り戻すというのは、この誰かが決めた、どこかにある政治の 이슈ではなく、生活の
場へ取り戻すこと、ここに政治があるのだということ
生活の中から政治的な営みや 이슈がわきあがってこそ、民主主義も急進化でき、根本的に民主化できる
ということ

<私たちの主張こそ政治 이슈だ>

- ・コロナ禍の中、様々な環境にある人々に、さまざまなニーズ、異なるニーズがあることが明らかになった。だ
からこそ、政治は、自分たちが想像もつかない、自分たちの目に見えていない人たちにも、自分たちの政治、
政策は及んでいくということに想像力が必要。しかし、それが一切ない。
- ・だから私たちは、政治に口も出すけれど、自分たちの今の主張こそが政治的に重要な政治 이슈なんだとい
うことを強く訴えないといけない。日本は一部の権力者に政治が独占されている社会になっている。

<ケアで政治を見直す>

- ・この本で最も訴えたかったこと……私たちがケアについて考える時、それを何かもっと重要なことのつけたし
のように考える傾向があるのではないかということ
- ・ケアはとても重要で、人類が生きながらえていくために不可欠なもの → 「エッセンシャルワーク」
- ・ケアは私たちの人間関係も、今の政治も、何か傷んだことがあれば修復すること
私たちの活動ほとんどすべてがケアだと言ってもいい(トロント) → **政治こそがケアだ**
- ・だとすると、私たちが身近で行っているケア活動から学んだ態度、時間のやりくり、判断の経験が、政治を見
直すうえでの重要な契機となる
- ・しかし、ケアは人類にとって不可欠なのに、その価値を貶められている → 政治のヒントがある
- ・ケアを見下す心性が埋め込まれている → 自己への反省ということも問われる
ケアは、長い歴史の中で人間として貶められた人たちに集中させて行わせて強制してきた → そのことも問
われる

<ケア講演の源流>

- ・「自然からも家族からも篡奪する資本主義」
- ・「資本主義批判とフェミニズム批判は一体」

ケアの問題は、資本主義の矛盾として表出してきた。「ケアの倫理」と資本主義は、つねに対決する
ケアという営みは、資本主義の中では評価されない、相容れないものだから

<ケアの実践と資本主義は相いれない>

- ・ケア労働はどうして無償・低賃金なのか

育児や介護の成果は、資本主義の商品のように、生産物としては目に見えないもの＝評価されない。 →ケア
という営みそのものに生産を第一に考える社会への抵抗の契機がある

- ・資本主義はケア労働を評価できない

ケアが対象にしている私たちの命そのものも価値を評価できない。本来、生産するにせよしないにせよ、
生のもを価値あるものとして認識し、評価する価値観を持っているはず。しかし、資本主義の中ではそれが
見えなくなっている

- ・資本主義はケア労働に冷淡

資本主義……人間が主体、自然は客体。何も悲鳴を上げないから、自然破壊や無尽蔵な自然篡奪を行っても構
わないという生き方

ケア……他者に振り回されたり、他者の時間に寄り添って動いたりする。自分をコントロールしながら他者と並
走する、伴奏することが必要になる。時には自分の意志を曲げながら、非常にしんどい、難しいコントロール。
判断力を試される

- ・なぜ女性にケアの役割が押し付けられてきたのか

資本主義社会の中では、誰かに依存している人、他人の力、手を借りないと生きられないような人たちを、病
人のように見てしまう。そうした依存する人に付き添う人、そのニーズを引きとってケアする人も、「二次的
依存」あるいは「副次的依存」と表現される。ケアする間は自分のケアに専心できないので、社会的には価値
のないものとして貶める。 それに対して、「ケアの倫理」の中で主張されているのは、そうした依存に対する
価値観を見直すべきだという提言

- ・ケア労働を政治を見直すきっかけに ケア労働の多くは、労働集約的で、あまりにも手がかかるが、機械化し
たり効率化したりはできない。生産物もはっきりしない。市場価値がつきにくく、市場価値がつかないので、
公的にその価値が評価されるしかない。教育も同じ

- ・問題は公的な場に、ケア実践をしたことのないような人ばかりいること →ケアの営みに対する評価を自分た
ち自身で変え、広めていくしかない。そのことを政治そのものを見直すようなきっかけにしていかなければな
らない

<「ケアの倫理」と「自己への問い」>

- ・「普遍的道徳律」・私たちが理想とする社会人、政治家

初志貫徹（ ⇔ 臨機応変）高度王の結果がどのような影響を及ぼすかについてはあえて考えない。

- ・「ケアの倫理」・様々な声に耳を傾け、文脈にそった思考方法にこそ社会的に重要なのではないかと問いか
け。

人間は多様な関係者とつながっている。特に危機の下で、葛藤、軋轢、様々な利害関係が出てくる中で敏感に
影響を受ける。自己中心ではとても出ないけれどやっていけない。「ケアの倫理」は自分自身に内政を迫る

- ・ケア実践が教えること

一方でとても価値あることをしている。他方で、今一番したいことを少し脇に置かないといけない →葛藤を迫る

・人間像・自己像の変革

①人はVulnerable（脆弱）であって、放っておけば死に至るかもしれない存在

②他者の尊重 子育て、介護、教育など

ケアの場面では、非暴力=暴力を振るわない という倫理が求められる

・「注視する」こと

時間を共に過ごす、相手のニーズを読み取ろうとするなどの気遣い

ケアされる人は、重要な他者に見守られていることで自分の中に価値がある、尊厳があると感じられる

ケアとは、憲法第13条「人間の価値」、第24条「尊厳」という価値を下から支えている大切な営み

<ケアが求める社会の構想>

・価値観を逆転させる「革命」を あらゆる人を労働力として組み込むことに価値を置いた見方が支配的な社会から、

すべての人がケアをし、またケアされる人としてみなされるような社会 に変革しないとイケない

・ケアしない口実を与えない

・私はケア活動に向いていない … ケアを学ばないと ケア実践はできない

・私は仕事で忙しい、自分の家族の世話はしている →社会全体でケアが足りない人々に関心を持たないとイケない そのためにも **労働時間の短縮**

・自分のことは自分でする、私はこれでやってきた。 誰も「自助」だけで生きることなどできない

<どこから始めるのか>

・相互に依存していることに注目する … 「ケアを前面に、かつ中心とする政治」「相互依存の政治」が必要 ケアは私たちが生きるあらゆる領域において偏在する営み

しかし、資本主義経済とりわけ新自由主義イデオロギーの下で、家族、あるいは自己責任として、一部の人々に押し付けられてきた

・豊かな実践を掘り起こす

共同保育、アメリカの黒人女性の子育て体験／地域社会の取り組み／福祉に価値をおいて、市場に任せない 強い規制を持った経済の提唱

<ムニシバリズム（地域主義）の取り組み>

・政治を市民に取り戻す課題を提起

いかに民主主義を急進化できるか／政治を女性化する…ケア・ワークを中心におく、私たちの生活に政治を引き寄せる

・日本での女性たちの取り組みの見直しを

政治参加やジェンダー平等を求めるだけでなく政治の在り方それ自体を変革すると ということ

・すべてのケアをみんな分担する…思想家 Nedelsky さん（カナダ）の主張

①「すべての人がパートタイムで」 → ケアを再評価するためには構造的な大転換が必要

②あらゆる人が労働とケアの仕事を担う。労働は週22時間。ケアは12~30時間

仕事はみんな働かないといけないことになっているのに、どうしてケアはしなくていいのか

2 『市民を育てる「公共」』…「ともにケアする社会へ」の構想

コロナパンデミックの中で「エッセンシャルワーク」という言葉が使われたように、「ケア」サービスが命に関わる重要な仕事であることが意識された。しかし、これまで「ケア」は貶められ、追いやられ、しかもそれが女性に押し付けられてきた。「ケア」が注目される今こそ、「ケア」を中心に据えた社会を意識しながら、生き方や職業選択(働き方)を考えさせたい。

「ケア論」によれば、人間は赤ちゃんから高齢者まで、誰かに依存しなければ生きてゆけない。つまり、誰かに依存するのは人として生きてゆく上で避けられないことである。したがって、「ケア」を「人類的な活動であり、私たちがこの世界で、できるかぎり善く生きるために、この世界を維持し、継続させ、そして修復するために」必要な活動ととらえる。

また、「ケア」論は、近代社会における公私の二元論が大きな誤りだと指摘する。なぜなら近代社会での公的領域は自立した個人で構成され、人々は自由で、平等な存在として位置付けられ、「十分な合理性を備え、自分たちの生活に関する決定をするさいに、理性のみを働かせて行動するという市民像」を想定している。他方で、「ケア活動」は私たちの誰もがかわる活動であるはずなのに、「ケア」を必要とする依存者やその人を「ケア」する人たちは私的領域に含まれるとされ、貶められ、公的領域から除外されてきたからだ。

この問題提起を受け、誰もが「ケア」され、「ケア」することを前提とした働き方や生き方、そのための職業選択について考えさせたい。

発言資料。オンラインから

教科研大会 2022 記念講演 岡野八代「子どもを大切に作る社会とは？ーケアの倫理から 考える」を読んで
2023. 2. 18 佐藤年明

・昨夏の大会当日、所用で外出していて聴けなかった岡野講演を誌上で学べてよかった。全体としては大変示唆に富み賛同する。『ケア宣言』は昨夏入手し、読み進めている。

・ちょっと重箱の隅的な疑問であるが、概念に拘って文献研究を進めているものとして、以下のことが気になっている。

「現代リベラリズム」への指弾⇒これは、「現代リベラリズム」という外延を明示できる思想的集団を対象とする批判なのか？ それとも「リベラルであろうとする」ことを標榜する全ての論者に向けられているのか？ liberal 概念そのものを、女性、少数者、被抑圧者を除外して構想されたものとして否定するのか？ 岡野論文には「リベラリズム」が6回、「現代のリベラリズム」「現代リベラリズム」が各1回登場する。また「リベラルな」という形容動詞も以下のように2回登場する。

「したがって、新自由主義批判者として日本では紹介もされているフェミニスト理論家の ウェンディ・ブラウンは、リベラルな主体とは、徹底的な男性中心主義者であると批判する。なぜなら、リベラルな主体像は、依存に関わる活動、人をすべて政治の場から排除するからである。」(P. 58)

文脈からは岡野が紹介するブラウンの「リベラルな主体」「リベラルな主体像」とは新自由主義に関することであると推測され、援用した岡野もそれ以外の一般的文脈において《リベラルであること》を全般的に批判・否定しているわけではないと推測はしている。

素人論議で恐縮だが、政治思想の呼称としての liberalism と比較して、それを含みながらも人間社会と人間生活の中でより一般的に使われる liberal という形容詞は政治的文脈でないものを含めてはるかに広い意味を持っている（後出の『ランダムハウス英和大辞典』参照）。私は、そうした広い（ある意味曖昧な）意味を含んだ「リベラルな」という形容動詞を自分自身の人格に関わっても慣用的に使ってきたし、今後も使っていこうと思っている。自分や他者を「リベラルである」と形容すること自体が、ケアの視点から政治思想史的に見て盲点を含んだ欠陥思想であると見なされてしまってよいのかという危惧を持っている。

むろん岡野氏がそのように述べているとは見なしていない。ただ、人間世界の営みの中で正当に評価されてこなかったヘアやそれを担う人びとへの顧慮、共感、連帯をケアの思想が持ち、それを強調するのであれば、それを妨害し広がりやを押しとどめようとするものたちへの厳しい批判は必要だと思うけれども、ケアへの着目には到っていないくても人間のより人間的なあり方を求める（「リベラルな」思想や生き方を含めた）流れに対して、敵対的ではなく寛容で説得的であることも必要なのではないかと思う。

【参考】自由主義 liberalism（森宏一編『哲学事典 増補版』（青木書店 1976）近代社会、すなわち資本主義の成立・発展にともなってあらわれた主張である。これは封建制、絶対主義、宗教的権威による支配にたいしてあらわれ、経済的・政治的、また哲学的に主張されたブルジョア思想である。経済的には自由放任をもとめ資本家の活動の自由を要求したものであり、政治的には立憲的議会政治をもとめ専制による支配を排撃し、- 2 - 思想的には思想・言論・信教の自由をたてまえとする。しかしこれらの特徴は、勤労人民が社会的に力をえてくると、自由主義が勤労人民をもふくめた民主主義の主張とは一致することができず、資本家階級の支配を保障するかぎりでの自由の行使のみをみとめるものである。したがって、勤労人民からもとめられる民主主義の徹底化にたいしては、ことごとに反対の態度をとってきたのが歴史上の事実である。たとえば、すでに 17 世紀から自由主義が唱えられていたイギリスで、いっさいの勤労者をふくめた普通選挙権が制定されたのは、ようやく第一次世界大戦の末期、ロシアに十月社会主義革命が成功した翌年、1918 年のことで、このときにも婦人の選挙権は 30 歳以上とされていた（のち、1928 年に男子と同年齢に引き上げられた）。日本では成年男子だけの普通選挙権制定は 1925（大正 14）年、婦人参政権は第二次世界大戦後の、1945 年であった。これらはいずれも、支配階級が労働者階級はじめ勤労者に譲歩をよぎなくされて、はじめてあらわれてきたのである。

liberalism（『ランダムハウス英和大辞典』小学館 1979）

- 1（行動・立場などが）寛大なこと、因習に縛られないこと、厳格でないこと
- 2（自由党の主義および政策としての）自由主義
- 3 自由主義：思想的には個人の権利と市民的自由の保障、政治的には個人の自由と議会主義の擁護、経済的には個人的活動の自由放任を求めて、制度の平和的な修正を主張する政治的・社会的思想潮流
- 4（現代プロスタニズムの）自由主義運動：伝統や権威の束縛から脱し、信仰を科学や人間の精神的能力に調和させようとする運動 リベラル（『新明解国語辞典特装愛蔵版』三省堂 1990）①自由・（寛大）な様子。②自由主義的。liberal（『ランダムハウス英和大辞典』小学館 1979）1（宗教・政治上の）自由主義の、改進黨の 2（進歩的政治改革を唱道する）自由党の 3（君主制・貴族制に対して）代議制政治の 4 自由主義（liberalism）の、自由主義に基づく；自由主義を擁護（主張）する
- 5（特に法が保証する限りで）個人に最大限の自由を認める、個人の自由の概念に反しない
- 6（特に個人の信仰・表現に関して）活動の自由を認める
- 7 偏見のない、偏狭でない、（自己の信念に）凝り固まっていない（free from prejudice or bigotry）
- 8（新思想などを）広く受け入れる、心の広い（open-minded）；（特に）慣習（因習）に縛られない

(unconventional) ; 公平な(impartial)

9 物惜しみしない、気前のよい、けちけちしない(not sparing)

10 惜しみなく与えられた(given freely) ; 十二分の、豊富な(abundant, ample)

11 厳格(厳密)でない(not strict or rigorous) ; 字義にとられない(not literal)

12 自由人(freeman)の ; 自由人にふさわしい

13 (体の部分・輪郭などについて) 大きな、豊かな(large, full)

討論・交流 (いつものように録音おこしではなく吉益の覚書です。ご容赦ください)

佐藤 ケアの思想は人類全体にかかわることではないか。岡野提起は新自由主義批判
人類発展の中で克服されていくのか、ケアの思想は新しい提起なのか、(資料参照)

野中 こんな大事な問題がなぜここにでてきたのか、非常に勉強になった。何が原因なのか
資本主義の問題が噴出している。それと対決する思想か、資本の論理にたいしてケアの論理で
対決できるのか。

山田 資本主義の労働者 ケアされる人 ケアする人。そこから考えてみてはどうか。

野中 ケアの思想 根源的 人間的優しさを問うことではないだろうか、

山田 やさしさでくくると足元をすくわれる 人間の尊厳 根源的価値ではないか。

死を前にしてどう生きるか 老人ホームでいきる人たちをみていると考えさせられる。

河内 2つの報告 学びになった。今 なぜ ケアが問題になるのか、臨床教育学に興味を持っている。
一人ひとりに寄り添う援助が必要、いじめ 不登校の増大の時代 人間の存在そのものを考える
尊厳を問題にする。ケア論の強調はそこではないか

大西 トロントの新しい民主主義 岡野さんの講演にも民主主義が、ここが重要ではないか。
この徹底をもとめている。歴史的岐路。自己責任論が広がる中で今こそ大事では。

葉狩 実践的には不登校の問題に表れている。現場の悶々とした思い あきらめが感じられる
そこでケアという考えをあらためて学ぶ パッシング理論に対抗できるのでは。
フランスの給食の実態を聞く中で。海外のケア理論を学びたい、

井上 障害児教育のゆさぶり 共感関係 これがケアの本質では メイヤロフ、ノティングス
2つの代表的理論から学ぶことが大事。 自己実現 やさしさとは相手を受け入れる 双方向になるの
ではないか。民主主義 公共 ケアの社会か 市民による公共づくり 民主主義の基盤が問われている。

河内 ケアは方法論ではない 人間の行動とつながっていくのでは。

芦田 意見が多岐にわたりケア論が深められていった。政治や経済の問題につながる。さらに整理していきたい。
岡野論文でケアを一生けん命する人はどういう社会をのぞむのか、そこにケアの本質があるのでは。
1対1を強調したのでないか。

山田 リベラリズム 考えたい あらゆる人が労働とケアをになわなければならない。この発想が求められてい
るのではないか、労働時間の短縮がとわれている。

岡野論文は8月の講演からさらに深めた内容でした。問題提起・指定討論、意見発表と
深い提起が続きました。ケアは奥が深いです。

神代健彦編『民主主義の育てかた 現代の理論としての戦後教育学』（2021）（その14）第2章
「私事の組織化」論 — 教師の仕事にとって保護者とは？（大日方真史）

【5回中の4回目】

佐藤 年明

今回は途中から長いこと大日方論文や学級通信問題から脱線してすみません。戻ります。

西間木氏の学級通信では、（クラス全体の問題自体については取り上げておられるかもしれませんが）個々の子どもの問題行動を実名を挙げて取り上げることは（絶対ないと断言することはできませんが）たぶんされていないんじゃないかと思うし、もしかして子どもの問題行動を匿名で紹介することもされていないのかもしれない、少なくとも問題行動の指摘を学級通信のメインの課題にはされていないだろうと思うのです。クラスの中、ということであれば、匿名で書いて読者が名前を特定できなくても、予想する範囲はクラス内に限定されますから、あの子かな？この子かな？という「犯人捜し」が始まりうるし、通信には書いてなくても子どもたちはおそらく知っているだろうから、実質的には名前を伏せきすることはできないでしょう。日々色々なことが起こる学級生活の中で、ある「よいこと」だけを取り出して学級通信で紹介することと、ある「悪いこと」だけを取り出して学級通信で紹介すること。この二つが教師・子どもたち・親たちの人間関係に及ぼす意味は、全く違うんじゃないでしょうか。

西間木学級の日常にいいことばかりが起こり続けて悪いことは何も起こっていない、というわけではないだろう。けれどその様々な出来事の中から、教師の目から見てほめたいこと、よいこと、うれしいことを取り上げて子どもたちにも親たちにも知らせていく。友だちのエピソードが載っていても「それに比べてあんたは！」とわが子を叱ったりがっかりするのではなく、「●●ちゃんすごいね、かっこいいね、いい子だね」と捉えてほしい。「いいこと」を肴にしてわが子と学校の様子を話し合ってもらいたい。私は西間木先生の親たちへのメッセージをこう読み取りました。

そして、前述の学級通信とは別の年度のクラスですが、2012年度6学年西間木学級の親である三田さん（仮名）が【ああ、あの子、こういうかんじなんだとかっていうのを、実際しゃべったことがなくとも、なんとなく、なんかこう、わかれる】（大日方2015 P.238）と語っておられることから、西間木学級の学級通信に掲載される「よいこと」は、**実名で、誰のことかわかるように書かれている**でしょう。

大日方氏自身も、前出論文の「おわりに」で西間木実践から学び得る【学校参加に向けた保護者意識の変容過程における教師の役割】について、次のように書いています。

【第1に、「教室の事実」を保護者に向けて差し出す役割である。「教室の事実」を教師が示し続けていくことが、それらを保護者間の共通関心の対象とする前提となる。西間木は、その意義を自覚して、学級通信に「教室の事実」を日常的に記述していた。それが子どもの固有名を挙げて示されることにより、教室の子どもたちに向ける関心の形成が保護者たちに可能になっていた。教室の子どもたちに日常的に触れることのない保護者たちにとって、子どもたちに向ける共通関心の形成を可能にするものとして、具体的な子どもたちの「教室の事実」がもつ意義は大きい。その内容として、西間木の学級通信の場合には、特に、多様な子どもたちに関して、肯定的に評価される事柄が示されることが重要であった。また、形式としては、保護者を惹きつけられるような記述の意義も確認された。固有名の子どもたちの肯定的に評価される事柄が「教室の事実」として日常的に、読み手を惹きつけるような記述を通して示されることにより、保護者たちにおいて共通関心が形成される。学校参加に向けた保護者意識の変容を促すために、教師には、「教室の事実」の示し方の探究が期待される。】（大日方2015 P.243）

⇒上記引用中で大日方氏が二度言及しているように、西間木学級の学級通信で「肯定的に評価される事柄」として紹介される子どもたちの姿は、【固有名】で書かれています。

学級の子どもたちにとってはもちろん日々共に学級生活を送っている《誰とわかっている》子ども。親たちにとっては、わが子と親しいのでよく知っていたり、名前を聞いたことがあるくらいでよく知らなかったり、あるいは学級通信を読むまで名前も知らなかった子どもの場合もあるかもしれませんが、とにかく●年●組の構成メンバーであって直接もしくは間接に知っている子ども。その子の「よいこと」が学級通信に記載されている。学級通信の読者である子どもや親にとっての学級通信の内容は、第三者が読む教育実践記録に描かれたある学級の様子とは、当然ながら全く違う意味合いを持ちます。特にわが子以外の、直接あるいは間接に知っている子どものことが記載されている場合、読者である親の受けとめは、教育実践記録における匿名の登場人物について読む第三者読者とは全く違います。そしてそのことが、学級通信の発行者である教師に教育実践記録公刊者としての教師とは全く違う課題を課します。

公刊された教育実践記録においては、匿名性のバリアがあることで読者は《自分自身は関与しない空間での出来事》として記録を読むし、仮に当該教育実践に関係をもつ人が読んだとしても、自分自身を含む関係性がその場に引きずり出されるわけではないと割り切ることができます。

一方、当事者間で発行され読まれる学級通信においては、肯定的メッセージを基調とした情報提供であることは保護者にも了承されているでしょうが、それでもさまざまな反応が生じます。

このうち、肯定的・好意的な受けとめ方については、先に2-3の項で紹介した西間木学級の保護者のものを再録しておきましょう。

【他の子どもたちのことについても、なんだかよく知っているような気がする】

【ああ、こういう子がいるんだなあっていうのをわかって】

【だいたいどんなお子さんかっていうのが思い浮かんだりするようになった】

【学校に行ったきになって、なんだろう、安心しちゃう】

【みんなすごい、かわいいの】

しかし保護者の受け止めは当然ながら肯定的・好感的なものばかりではありません。例えば、2013年度3年西間木学級・2014年度4年西間木学級の親である野村さん（仮名）の場合。

【わたしも、1回目だけは、チェックしてたんですけど、ぜんぜん〔わが子が：大日方補足〕出てこなくて、もう最後の最後で、作文がまるごと出たときはほんとに泣きそうになって。あ、やっと出てきた、っていうときがありましたけど。もうでも1回まわってきてから、もういいやって、なにもって、そんな見たりしなかったけど。】（大日方 2015 P. 242）

この野村さんのインタビュー記録について、大日方氏は以下のようにコメントしています。

【野村さんは、紙面におけるわが子の登場を待ちながら読むという、私的関心に即した学級通信の読み方から、それを気にしなくなる読み方への変容を語っている。わが子の登場により私的関心に応えられたという実感の意味を語っているのである。】（同）

⇒野村さんの肉声を直接聴いたインタビュアーである大日方氏自身のコメントに対して、大日方論文の一読者に過ぎない私が口を挟むのはおこがましいですけど、野村さんのお話（あくまで掲載されたスクリプトの範囲で、ですが）の最後の部分を私は少し違う解釈で読みました。学級通信を受けとり始めて以来、野村さんの関心はわが子がいつ登場するかだった。「最後の最後」、つまりほぼクラスの子どもの登場が一巡する頃にわが子の

作文がまるごと紹介されて、「泣きそう」に嬉しかった。1回登場してからは「もういいやって」なった。ここを大日方氏は、私的関心を「気にしなくなる読み方への変容」と読んでおられるのですが、野村さんが「そんな見たりしなかった」と書いておられるのは、取り敢えずわが子が1回登場したことで学級通信への関心が弱まったという意味とも読めないでしょうか。意地悪すぎますか？

大日方「学級通信—私事(わたくしごと)をみんなのことへ」(『教育』No.867 2018.4)の中で、大日方氏は、登場する当事者の属性には言及されていないのですが、佐藤が読む限り明らかに野村さんのことに触れて、以下のように書いておられます。

【私が見出したのは、学級通信を通じた保護者の私的関心への応答から、共通関心の形成へといたるという道筋である。次に紹介するのは、共通関心がすでに形成されてきていた保護者たちの声だが、そこにその道筋を読みとることができる。それは、最初はわが子が学級通信に出てくるかチェックしていて、出てきたときにはうれしくて泣きそうになったが、一度出てくるとチェックは「もう、いいや」となったという声や、「まず自分の子が、学校でちゃんとやっているのか」が気になって、学級通信を読んでいたという声である。】(大日方 2018 P.86 下段)

⇒上記引用中で紹介されている2事例のうち前者は野村さんであると私は読みました。上記の大日方氏の解説を読むと、野村さんの「もういいや」は、わが子が学級通信に登場したことに安堵して学級通信自体への関心が「もういいや」と低下してしまったという意味ではなくて、毎号毎号わが子が出ているか気にしてチェックしながら読む読み方は「もういいや」となったということなのだろうと思います。大日方論文に掲載されているインタビューの述懐の断片から、野村さんを、わが子の学級通信への初めての登場によって安堵して学級通信自体への関心が低下してしまった人と判断した私の「意地悪」な読みは、やはり間違いだったようです。

ただ、野村さんは次のようにも語っておられます。

【もう、ある意味、あ、この子はうちの子よりこれが優れてるんだらうなって。そこで、わたしは、じゃあうちも負けずについてという感じよりは、それとして捉えちゃってるっていうか。しょうへい〔息子：大日方補足〕は、この子よりここ劣ってるかもしれないけど、今はしょうがないか、みたいなかんじで。(略)子どもにいろいろ求めてもしょうがないのかなと思って、ぐっと抑えるときとかありますけどね。求めたいところも。】(大日方 2015 P.243)

⇒西間木先生の願いにもかかわらず、親はやっぱりわが子とよその子を《比較する》んですね。それはこの競争社会の中ではしかたないことでしょう。だけど野村さんは、わが子を他の子と比較すると劣っていることもあるけれど、「がんばって追いつけ追い越せ」とわが子に求めてはいけないと自制しているんですね。ここには書いてないけど、わが子ならではのよいところを大切にしたいと思っていらっしゃることでしょう。しょうへいくんの作文が学級通信に掲載されてことで、その思いは強まっただろうと思います。

実は、上記のエピソードを紹介してコメントを付けるだけでは、大日方(2015)の読者として不公平の誹りを免れ得ません。というのは、野村さんのインタビュー記録は大日方(2015)の「2-3. 保護者における共通関心の形成 (3) 共通関心形成の条件」及び「3. 保護者における私的関心の位置 (2) 私的関心の特性」の中で下記の通りまだ他にも紹介されているのです。

【それでは、西間木の学級通信を通じて保護者において共通関心が形成される条件とはいかなるものであろうか。次の4点をあげることができる。(中略)

第4に、記述の形式によって、内容に惹きつけられることである。

インタビューで筆者が「クラスの様子とか、日常のことが、どうしてそんなによくわかるのか」と問うたところ、次のようなやりとりがあった。(中略)

また、野村さんも、次のようにいう。

野村：描写が面白いから、こう引き込まれちゃうのもあるんでしょうけど。

筆者：描写ですか。

野村：読み物として。はい。そうですね。情景が思い浮かぶというか。

筆者：どういうところが情景が。

野村：〔子どもの：筆者補足〕ことばからはじまったりとか、そういうのがあったりするの。え、これはだれが言ったんだろうみたいな、惹きつけ方が上手だなとか思って。

こうした語りにみられるように、西間木の用いている、出来事を描写して「教室の事実」を記述する形式が、保護者の関心を惹きつける条件となっていると考えられる。教室の子どもの発言を実際に引用しながら、子どもの固有名をあげて記された学級通信が、日常的に継続して読まれることによって、教室の子どもたちに対する共通関心が形成されてくるのだといえよう。】(大日方 2015 P. 240)

【それでは、関口さん以外の保護者において、私的関心とはいかなる意味をもつのであろうか。2012年の調査においては、関口さんの声を受け、保護者たちの間に、わが子に対する保護者の意識をめぐる話題が生じた。下の引用部分に明らかであるように、わが子に対する保護者の私的関心は、関口さん以外の保護者においても維持されている。つまり、私的関心は共通関心へと組み替えられて消滅するわけではない。(中略)

2014年の調査においても、野村さんが、わが子の登場した学級通信に言及して次のようにいう。

こないだ(略)初めて運動〔に關すること：筆者補足〕で褒められたのはちょっと、うれしかったですけど。ああ、そんなこともあるんだと思って、うれしかったですけどね。でもたしかに西間木先生、ね、比べる材料にしないように、って書かれてるので、比べてるわけではないんですけど、でもやっぱり出てくるとちょっとうれしいっていうところはありますよね。

この語りにも見られるように、わが子に向けた私的関心は保護者において共通関心の形成を経てもなお維持されており、その私的関心に応じる学級通信の記述は、とりわけ肯定的に受容されている。】(大日方 2015 P. 241)

⇒上記のうち2つ目のインタビュー記録で野村さんが「初めて運動で褒められた」と言っておられるのが、私が先に引用紹介した「最後の最後で、作文がまるごと出た」というその時のことなのかどうかは確認できません。私が紹介した部分での「ほんとに泣きそうになって。あ、やっと出てきた」という気持ちの吐露と、上記2つ目のインタビュー記録での「ちょっと、うれしかった」という気持ちの吐露とでは、ちょっと感情表現の程度に落差がありますが、わが子が先生から評価されて学級通信に登場したことへの親としての嬉しさを同じく表現しています。ただ注意すべきは、野村さんが上記2つ目の発言の続きで「たしかに西間木先生、ね、比べる材料にしないように、って書かれてるので、比べてるわけではないんですけど、でもやっぱり出てくるとちょっとうれしい」とおっしゃっていることです。基本はわが子の登場を喜ぶ気持ちの表現なんですが、その前提として西間木先生の「比べる材料にしないように」という提起を十分意識されています。

さらに上記1つ目のインタビュー記録では、野村さんは「描写が面白いから、こう引き込まれちゃう」「情景が思い浮かぶ」「これはだれが言ったんだろうみたいな、惹きつけ方が上手だな」とも語っておられます。わが子の登場云々以前に教室の情景の描写に惹きつけられて楽しんで学級通信を読んでおられることがわかります。大日方氏は上記2つのインタビュー記録を踏まえて、【わが子に向けた私的関心は保護者において共通関心の形成を経てもなお維持されており】(同)とコメントされており、野村さんにおいてはすでに共通関心が形成されて

いと評価されています。これが西間木学級の親の声をたんねんに聴き取って分析された大日方氏の把握であり、野村さんへのインタビュー記録の一部から野村さんの私的関心、わが子への関心の部分にしか注目していなかった私の読み方は一面的であったことがわかりました。

話を戻します。

野村さんと同じく 2013・2014 年度西間木学級の親である永島さんは、クラスのある子の日記を学級通信で読んだ感想をこう語っています。

【すごいそんなこと書けるんだあって。もちろん、うちの子に書けないからそうやって思うんですよ。うちがたぶん、すごい書いてたら、なんとも思わないかもしれない。だけど、できない、うちの子は、そんな視点からは書かないなって思うことだから、興味深いの。楽しくって、みちやいます。】(大日方 2015 P.242)

【うちの子はうちの子で、いっぱいいっぱい、十分やってると思うので。(略)お友だちをみて、ほんとすごいし面白いし、すごいなって思うんだけど、うん、だからって、うちの子がなんで、っていうふうに思わないし。もちろんなんか、ああいうふうに言ってくれればいいのになって、思う、思うけど、それは、あの子の担当だから、いいんです。うちの子が担当じゃないから。】(同)

⇒私は西間木先生に倣って、野村さんと永島さんを《比較する》ようなものの見方はしないでおこうと思います。兩人共に、西間木学級に暮らしそれぞれにがんばっているわが子を、肯定的に評価したいと願っているんだと思います。(だから、野村さんとの比較対象ではないんですが)私は永島さんのわが子への見方はすごいな！と思いました。クラスの他の子の日記に対してすごいなと思ひ、うちの子とは違うなと思うけど、だからこそ「興味深い」、「楽し」いと感じる。うちの子はなんでできないのか、とは思わない。それは「うちの子が担当じゃない」。私たちが教育実践研究の中で語ってきた子ども一人一人の個性、持ち味、大田堯先生がおっしゃっていた違いを個性に、個性に出番を。これらの教育思想に近い、原型としての親の思いを永島さんは語っておられると思うのです。他の子どもとの違いから学ぶことでわが子の子育てを豊かにしようとする、そしてその営みは楽しい。すごい豊かな発想ですね。私たち教育に関わる者は、親からこのような子育ての経験と知恵を学ぶことを忘れてはならないと思います(野村さんの場合も、学級通信の記述自体への興味関心を、わが子が掲載されたかどうかには限らず持たれていることはわかります)。

もちろん、「永島さんは特に優れた親なのだ。これが親の平均像ではない。一人の親から親の《すごさ》を一般化できない。」という批判はあり得ると思います。だけど親の姿も固定的ではない。永島さんだってわが子の「評価」のしかたに悩むこともあるだろう、他の親だってみんな揺れているだろう、揺れながらわが子の学校生活を支え、また他の子どもも含めたわが子の学級の学級生活にそれぞれなりに注目しているだろう、と思います。そして少なくとも西間木学級においては、わが子の、また友だちも含めた学級生活に対する親の関心は、単に自然発生的に生じているものではなくて、(少なくとも学級通信を読んでいる親の場合は)【「比べる材料でなくほめる材料、学校の話題の一つにしてください」というメッセージを添えて送られてくる西間木先生の学級の事実についてのメッセージにいろいろな意味で触発されて形成されています。だから、《親も教師に育てられるし、教師も親に育てられる》という関係の中での、揺れ動いている親の認識ではあるけれども、それでもやはり、教師も学べるし第三者も学べる《親の知恵、才覚》のようなものは存在すると思います。(つづく)

学級通信で何を提起するのか、事実をどう伝えるのか、自己満足でない内容をどう編集するのか、読み手の立場にどうたつのか、写真の提示か文章か、色々と現代的課題がありますね。

リレー連載（6）

平和博物館探訪—鳴門市ドイツ館—2022年12月27日

井上力省

2022年12月末に、平和博物館である鳴門市ドイツ館【写真（上）】と第9交響曲アジア初演の地、板東俘虜収容所跡（財務省が土地を鳴門市に無償貸与しているので残されている）【写真（中）】に行きました。

同館は、第一次世界大戦で捕虜となったドイツ兵の日本での生活が展示してあり、地元の人びととの交流もあったことがわかります。

19世紀末、ドイツは中国の山東半島を租借して東アジアに侵出していましたが、第一次世界大戦に参戦した日本軍の攻撃を受け、中国における権益を失いました。その際、多くのドイツ兵が日本の捕虜とされ、日本各地に収容されました。

戦争が終わっても帰国しなかったドイツ兵が多いのには驚きました。しかし日本は第二次世界大戦で捕虜の虐殺をすすめていきました。当時も歴史に学ばない政治が加害をもたらしたと思います。鳴門市ドイツ館の近くには、日本が管理していた捕虜収容所の一つ、板東俘虜収容所跡があります。現在は、公園とされており、この地で亡くなったドイツ兵の慰霊碑、遺構や建物の一部が残されています。



井上さんの博物館探訪は次回も楽しみです。外国との違いもふれられて世界史の世界に誘われます。

次回は渡部代表 大西さんと続きます。番外のラーメン巡りは不定期で掲載 します。

京都は大学が多く学生の食事ところとして一条寺にラーメン屋がたくさんできました。2000年代になってからです。一条寺といえば1970年代は京一会館というオールナイトの映画館がありにぎわっていました。今はなくこのラーメン街と恵文社 一条寺店が本好きの方に有名です。出町柳から叡山電鉄に乗って一条寺に下車するとたくさんのあらゆる形のラーメン屋が並んでいます。屋台で人気の店から一条寺に進出したところもあります。どちらかという小さな店が多いですが観光客も多く、11時開店前から長蛇の列ができる店がたくさんあります。今回は人気店も含め色々なジャンルの店を紹介します。

【1, とうひち】 修学院駅から徒歩5分

一条寺から一駅の修学院に2022年4月に京都市北区から移転してきました。ミシュランで毎年紹介される人気店で、しょうゆ味が基本。くせがない。あっさり味。女性に圧倒的人気のある店で京都NO1という人もいます。

【2, 珍遊】 一条寺駅から徒歩5分

昭和25年創業という屋台から出発した老舗 万人うけするしょうゆ味。一条寺以外に河原町六角 大手筋と支店がある。昔ながらの味といえる。みためはこってりだが味はあっさりしている。

【3, 高安】 一条寺駅から徒歩5分

一条寺の超人気店。観光客も多く30分待ちは普通。しょうゆ系スープ風味で好みが分かれるかも。ここの名物はカレー味のからあげでそのボリュームに圧倒される。持ち帰りも気軽に対応してくれる。

【4, 麵屋 極鶏】 一条寺駅から徒歩5分

一条寺で最も人気のある店。日によって1時間、2時間まちも。天下一品をこえるドロドロのスープのようなラーメン。麺がみえない。山陰線二条駅に特別の自動販売機はありそこで売っている。私はそれを買って食べた。

【5, ラーメン荘 夢を語れ】 一条寺駅から徒歩5分

いわゆる二郎系のこってりボリュームたっぷりのしょうゆ濃いくちラーメン。店ではなくスーパーで冷凍で販売していたものを食べた。お店のものはその多さからとても食べきれないと思ったので。

この他にも京都では有名な【天下一品】の本店や【天天有】などがある。徒歩5分というのは少し個人差がありますが、だいたいお店が並んでいます。どこも10人ぐらいははいれる小さなお店です。

【とうひち】のような人気店は駐車場をもっています。たいがいは駐車場はなく電車と徒歩が基本です。このほかにも多くのラーメン店があります。約40店がひしめいています。一条寺は本店が多いが、その支店が同じようにうまいかという微妙にちがいます。その点もご注意を。

今回は少し変わったラーメン人気店を紹介します。

読書・映画・DVD・CD 情報（趣味的ですいません）

- ① 百万石の居留守役シリーズ 1～18 上田秀人 角川文庫
上田秀人の時代小説にすっかりはまってしまった。居留守役となった青年剣士 瀬能数馬の成長物語 江戸時代、徳川の権力争いの中で翻弄されながらもひたむきな主人公に同化してしまう。そのまわりの登場人物も魅力的。小説とはいえ、上田の時代考証も見事で面白い。全 18 巻だが2月は 10 巻までよめた。
- ② 戦争と平和 ある観察（増補新装版） 中井久夫 人文書院
中井久夫はエッセイの名手ともいわれている。中井の体験的 戦争論、増補版は加藤陽子、島田誠の対談に海老坂武がくわわりより面白くなっている。戦争と震災 平和についての中井の語りは平易だが奥深い。
- ③ 羅生門・鼻・侏儒の言葉（再読） 芥川龍之介 旺文社文庫
中学生の時に読んだ本だが、とりわけ侏儒の言葉は味わい深い。最近 昔に読んだ本を再読してその印象、感じ方の違いを楽しんでいる。
- シャイロックの子供たち 池井戸潤原作 阿倍サダオ 上戸彩主演
池井戸潤の人気小説を軸に新たな脚本で映画化。金の誘惑にだれもが揺らいていく。銀行の世界の暗部をゆるがない女性銀行員の視点から読み解くエンターテインメント。娯楽映画といえればそれまでだが「楽しかったな」と実感する。

編集後記・よもやま話

※今回は8月の岡野講演を軸に芦田さんの詳細な報告、それをふまえた山田さんの指定討論、佐藤さんの鋭い意見提示とどれもが味わいのある提起で、ケアについての認識が深まりました。新たな学習意欲もわいてきました。一つの論文をじっくり討議する例会楽しかったです。（自分でいうのも変ですが）

※オンラインのハイブリット開催が定着してきました。まだまだ音声など改善の余地がありますが遠方の方が自由に参加していただき意見を交流できることはうれしいことです。さらに環境を整えて実りあるものにしていきたいです。

※山崎豊子の小説『運命の人』のモデルとなった元毎日新聞記者の西山太吉さんがなくなりました。核密約の国家のうそを暴いたのに、スキャンダルにすりかえられました。国家のうそ、組織のうそに対して情報に振り回されることなく冷静な目で判断し行動できるようにしたいものです。自分の頭、目、耳を信じてみずからの思想を鍛えていきたい、〇〇主義だけでは思想が地につかないと改めて思いました。

※NHK ドラマ「ガラパゴス」を観た。久々の骨太のドラマ。非正規労働者の実態を鋭く描いていた。織田裕二が味わい深い演技。当たり前前の生活とは何かを問うていました。

※毎日の寒暖の変化になかなか体がついていかに日々です。しかし確実に春が近づいてきました。自然の春とともに社会の春も変化させたいです。3月から4月は別れと旅立ちの季節。マスクなしの顔に驚きつつ、マスクと上手につきあいたいものです。